

とべ動物園まじめ行動計画

第 3 期

案

令和 7 年 3 月

愛媛県



目 次

1. 第2期までの取り組み	3
2. 計画策定趣旨	5
3. 基本方針(報告書より)	6
4. 取り組み方針	6
5. 分野別計画	12
6. 動物管理計画	17
7. ソフト・ハード別施策	19
・施設整備(改修・更新)位置図	28
8. 年次計画	29

1. 第2期までの取り組み

ハード・ソフト両面からの魅力向上に向けた取り組みの検討

H29.9 総合プロデューサーの配置

H30.3 「とべ動物園魅力向上戦略検討委員会 報告書」作成

H30年度

開園30周年記念イベントとして戦略的に事業実施

開園30周年記念イベントとして、話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を実施。

【主な内容】

《話題性のあるイベント》

- ・グランピング
- ・イルミネーション
- ・キャラクターアワード

《効果的な情報発信》

- ・えひめ Free Wi-Fi の整備

《魅力的な動物の導入》

- ・オランウータン
- ・フタコブラクダ

実効性のある短期の事業計画を策定

とべ動物園まじめ行動計画（第1期）（R元～R3）を策定し、着実に推進する。

★目標入園者数：**50万人**

★取り組み方針：良好な「とべ動物園ブランド」の構築

★到達目標：とべ動物園を知ってもらう。

★重点戦略：①集中的かつ積極的な戦略的な情報発信、広告宣伝、話題性のあるイベントで、認知度向上
②人気動物の導入や魅力的な観覧環境の整備でブランド資産増進

R元年度

R2年度

R3年度

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・俳句イベント
- ・グランピング（継続）
- ・秋の読書週間とのコラボ
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信

《獣舎整備》

- ・アシカ舎改修

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・空き獣舎アートイベント
- ・トリックアート
- ・休園日プレミアムガイド
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《獣舎整備》

- ・アシカ舎改修（継続）

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・雪まつり
- ・トリックアート（継続）
- ・休園日プレミアムガイド（継続）
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《獣舎整備》

- ・サル・ヒヒ舎設計

《認知度》

とべ動物園のHPを検索したユーザー数：（H30→R3）1.35倍（12月末時点と比較）

※コロナ休園期間中もアクセス数は上昇

《入園者数》

コロナ禍による臨時休園などの影響により、総入園者数は減少したものの、臨時休園期間を除いて入園者数は増加した。

認知度向上

実績や現状を踏まえ短期の次期（第2期）事業計画を策定

とべ動物園まじめ行動計画（第2期）（R4～R6）を策定し、着実に取り組む

- ★目標入園者数：55万人
- ★取り組み方針：良好な「とべ動物園ブランド」の強化と定着
- ★到達目標：とべ動物園の良さを実感してもらう
- ★重点戦略：①引続き情報発信や広告宣伝に努め、ブランドの浸透と定着を図る。
②楽しく動物を観覧できる環境整備により、ブランド資産の着実な増進に努める。
③来園者との良好な関係構築に努めコミュニケーション活性化を図る

R4年度

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・スイーツメニュー開発
- ・休園日プレミアムガイド（継続）
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《ハード整備》

- ・軽食コーナー整備
- ・多言語看板の整備

R5年度

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・キャンプ
- ・休園日プレミアムガイド（継続）
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《ハード整備》

- ・軽食コーナー整備（継続）
- ・多言語看板の整備（継続）

R6年度

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・休園日プレミアムガイド（継続）
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《獣舎整備》

- ・オランウータン舎整備検討
- ・多言語看板の整備（継続）

《HP 訪問数》

- ・とべ動物園のHPを訪れた回数：（R3→R6）1.8倍（12月末時点で比較）

《とべ動物園満足度》

81%（R6年度）

《入園者数》

コロナ禍前の入園者数の水準（40万人台）に戻るなど回復基調。

ブランド強化

実績や現状を踏まえ、今後の動物園のあり方をワークショップ形式で検討



次期（第3期）事業計画の策定

これまで実施した事業効果を持続させ、来園者が、とべ動物園に愛着を持ち、リピーターとなっただけなど動物園とより良好な関係が構築できるよう、魅力ある動物の導入や行動展示の導入推進、安全で快適な観覧環境の充実、新たな学び、気づきを与えるイベントの拡充、また、周辺施設との連携などの施策を盛り込んだ第3期の行動計画（R7～R9）を策定し、入園者数の増加（55万人）に向けた取り組みをさらに推進していく。

【平成30年度】

- ・平成30年度は、とべ動物園が開園から30周年という節目の年に合わせ、30周年を祝う記念事業として、話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を戦略的に実施した。

【令和元～3年度】

- ・令和元年度に、とべ動物園魅力向上検討委員会報告書を基にした実効性のある短期の事業計画を策定し、第1期（令和3年度まで）の行動計画として、とべ動物園の認知度向上を目標に、引き続き話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を戦略的に実施した。
- ・令和元年度末から新型コロナウイルスの感染拡大により、臨時休園やイベントの自粛などの影響があったが、臨時休園期間を除いた入園者数は前年度を上回り、特に令和3年度は過去5カ年で最高となるなど、第1期の取り組みとして成果があった。

【令和4～6年度】

- ・第1期計画での成果や実績を踏まえ、とべ動物園の魅力が来園者に浸透し定着するよう、良好な「とべ動物園ブランド」の強化に向け、第2期（令和4年～6年度）の行動計画を策定した。第1期に引き続き話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を戦略的に実施した。
- ・コロナ禍により来園者数が減少したものの第2期計画での取り組みや新型コロナウイルスの5類移行によって、来園者数は徐々に回復傾向にあり、また、満足度が向上したとの意見もいただいている。さらに、とべ動物園ホームページ訪問数は年々増加しているなど、一定の成果がみられた。

2. 計画策定趣旨

【目的】

とべ動物園では、今後の将来を見据えた持続可能な動物園を目指し、「とべ動物園魅力向上戦略検討委員会」の議論を踏まえて、県内有数の集客観光施設としての魅力向上や、環境学習・情操教育の場の実現に向け、ハード・ソフト両面から魅力向上に向けた基本方策をとべ動物園魅力向上戦略検討委員会報告書に取りまとめた。

本報告書の内容を踏まえた実効性のある短期の事業計画を令和元年度から令和3年度までの3カ年を第1期計画、令和4年度から令和6年度までの3カ年を第2期計画として策定し、前述のとおり様々な施策に取り組んできた。

第1～2期で取り組んだ事業の実績や成果を踏まえ、第1期から取り組んだ行動計画の集大成として、第3期の行動計画を策定・実践していくことでとべ動物園に愛着を持ってもらう、高い「※とべ動物園ブランドロイヤリティ」の獲得を目的とする。

※とべ動物園に対して感じる愛着や信頼感

【事業計画】

期間：（第3期）令和7年度～令和9年度（3カ年）

3. 基本方針（報告書より）

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。

将来にわたり、公立動物園として生物多様性確保の基地としての役割や、環境教育の拠点としての役割を果たすとともに、独自性にあふれた動物園に人が集い、たくさんの物に興味を持てる持続可能な動物園を目指すため、上記の目標を設定する。

基本方針1. とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現

とべ動物園の立地状況や周辺環境、とべ動物園の持つ繁殖技術等のとべ動物園の持つ他にはない独自性を活かした動物園の実現を目指す。

基本方針2. 人が集い活力のある動物園の実現

対象者を広くとらえ、それぞれの人が自分に合った楽しみ方ができるように工夫を行うことで繰り返し訪れ、笑顔があふれ活力のある動物園の実現を目指す。

基本方針3. 動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

動物への感性を育み、自然を大切にする心を養うことにより動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現を目指す。

基本方針4. 持続可能な動物園の実現

今後の将来を見据え経営的な視点に立ち持続可能な動物園の実現を目指す。

4. 取り組み方針

（1）「良さを実感してもらう」から「愛着を持ってもらう」へ

第2期で取り組んできた「良さを実感してもらう」ことが、とべ動物園ブランドの定着、さらにはブランド力の一層の強化に繋がっていると捉え、第3期では、来園者にとべ動物園への「愛着を持ってもらい」、高い「とべ動物園ブランドロイヤルティ」の獲得に繋げることを目指す。

そのため、第1～2期での事業効果を持続させ、また、社会環境の変化に応じた取り組みを実施することで、ブランドの浸透と定着を図るとともに、ブランド資産の着実な増進（ブランド力の一層の強化）に努める。さらに、来園者との良好な関係

構築の維持に努めるとともに、顧客リレーションの強化を図り、入園者数の増加に引き続き取り組む。

(2) 愛着を持ってもらう、高い「とべ動物園ブランドロイヤリティ」の獲得

短期の事業計画策定に当たり、報告書の4つの基本方針に基づく17項目の取り組み項目を、以下のとおり、①早期に着手する取り組み、②中長期的な取り組み、③長期的に継続して実施する取り組みの3つに分類。

①早期に着手する取り組み

- 新たなターゲットに向けた取り組み
- 魅力的なイベントの創出
- 効果的な情報発信
- 広報・情報提供の充実

②中長期的な取り組み

- 安全・快適に観覧できる施設の整備
- 動物の生息環境整備
- 海外の動物園との連携
- 学習的・体験的な機能の充実
- 視点を考慮した施設の整備

③長期的に継続して実施する取り組み

- 地理的特性を活かした施設連携
- 地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携
- とべの繁殖技術等を活かした動物の導入
- 希少種の保存に向けた取り組み
- 資本の強化
- 持続可能な運営体制の構築
- 飼育動物の安定的な確保
- 経営改善

第1～2期は、幅広い年齢層にとべ動物園を知って、訪れてもらうことに重点を置き、また、近年増加している海外からの観光客や、比較的入園数割合の少ない若い世代も新たなターゲットとし、話題性のあるイベントの実施や、デジタルマーケティングの手法を活用した様々な情報発信に集中して取り組んできた。

第3期は、イベントや情報発信などの取組みを引き続き効果的に実施しながら、来園者が、とべ動物園に愛着を持ち、リピーターとなっていただくなど動物園とのより良好な関係が構築できるよう、魅力ある動物の導入や行動展示の推進、安全で快適な観覧環境の充実、新たな学び、気づきを与えるイベントの拡充、また、周辺施設との連携などの施策に集中して取り組む。

【重点戦略】

- ① 第1～2期の取り組みで成果のあった、集中的かつ積極的な戦略的情報発信、イベントの広告宣伝などを継続して実施し、ブランドロイヤリティの獲得を目指す。
- ② 魅力的で話題性のある動物の導入や動物への興味がより深まるような動物の行動展示の推進、安全で快適に観覧できる環境整備等により、ブランドロイヤリティの獲得に努める。
- ③ 来園者の利便性や快適性を重視した園内の観覧環境(通信環境の整備や避暑対策等)の整備を行うことにより、来園者の満足度を向上させるとともに、良好な関係構築の強化を図る。

【目標設定（R9年度）】

○年間入園者数

第1期期間中に発生した、新型コロナウイルス感染拡大により、臨時休園措置や行動自粛などの影響を受け、一時来園者数は減少したものの、魅力向上の取り組み、新型コロナウイルスの5類移行などによって、来園者数は回復傾向にあるが、第2期に目標としていた55万人の達成は困難な状況にある。

このため、第3期（R7～R9）は、実績・現状を踏まえながら、入園者増につながる計画的な施設整備、魅力的な動物の導入、とべもり+（プラス）各施設と連携した取り組み等を実施し、引き続き55万人を目標に取り組む。

○来園者満足度

アンケート調査による来園者満足度調査を行い、85%以上を目標とする。

○動物種数・個体数の維持・拡大

動物管理計画に基づき、魅力ある動物導入を行うとともに、継続的な繁殖に努め、動物種数・個体数を維持・拡大する。

○動物福祉に配慮したイベントの創出

動物福祉に配慮しながら、動物とのふれあい体験等の機会を拡充する新たなイベントを年間3本程度創出する。イベントの実施により、動物への親しみや愛着の気持ちを涵養するとともに、動物福祉への関心や学習効果を高める。

○積極的な広報活動

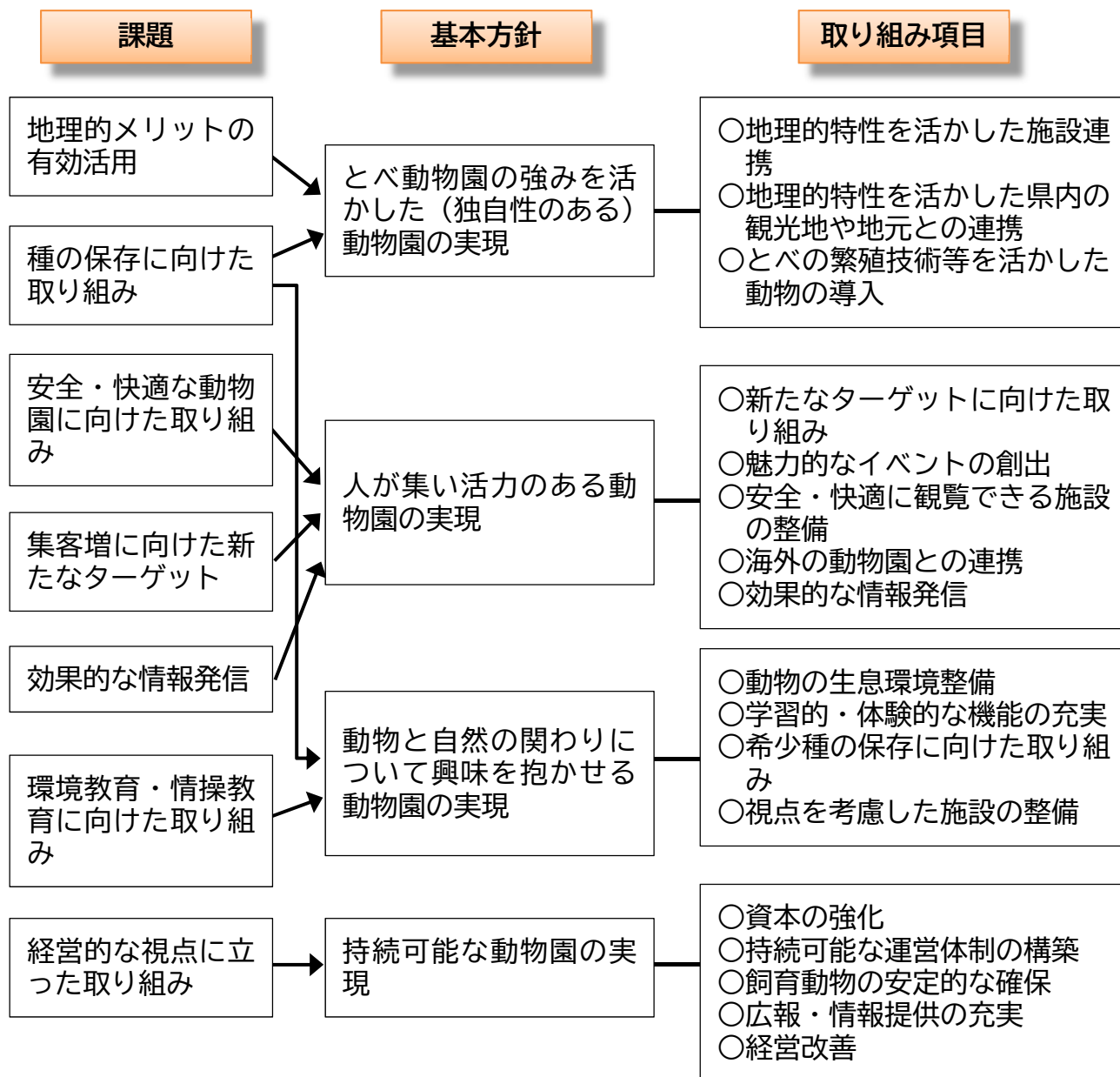
動物導入、搬入時、またイベント開催時など、積極的な広報活動を実施し、とべ動物園のホームページ閲覧数を150万回/年を目標とする。

○環境エンリッチメント

動物が生息している自然環境を出来るだけ再現するとともに、動物本来の行動の多様性を引き出すことにより、動物の福祉と健康の更なる向上に努める。引いては、動物の心理的幸福度が向上し、延命や繁殖行動に繋がる。

■施策体系図

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、
何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。



実施項目	実施時期		実施内容(概要)
	短期 (概ね5年以内)	中・長期 (概ね5年以上)	
【基本方針1】とべ動物園の強みを活かした(独自性のある)動物園の実現			
地理的特性を活かした施設連携			
県内類似施設との年間共通パスポート等の発行	○	○	料金等類似施設と連携し年間共通パスポート等を発行
1 とべもり+ (プラス) 各施設と連携・交流の強化	○	○	共同イベント等の開催によりエリアとしての相乗効果を得る
えひめこどもの城との円滑な移動手段の確保	○	○	園路の整備や手軽に利用できる移動手段の整備
地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携			
2 県内の観光施設(道後温泉)伝統工芸品(砥部焼)との連携	○	○	道後温泉からの送迎バス、砥部焼とのコラボ
地元産業(砥部焼等)を活かしたグッズの開発	○	○	ご当地ならではのグッズ開発
砥部町で滞在観光できる環境の整備		○	砥部町での宿泊環境等の充実を図る
とべの繁殖技術等を活かした動物の導入			
3 とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖	○	○	とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖
4 飼育技術の向上や調査研究機能の強化	○	○	他の動物園・大学等との交流や研究会等への積極的参加
【基本方針2】人が集い活力のある動物園の実現			
新たなターゲットに向けた取り組み			
5 海外からの観光客を対象とした取組みの強化	○	○	動物園内の多言語表記、外国人向けの体験型イベントの実施やお土産の開発
高齢者を対象とした取り組みの強化	○	○	高齢者施設への営業、パスポートのPR、祖父母と孫という観点での取り組み、乗り物整備等
6 小中高生の来園の増加に向けた取組みの強化	○	○	教材の開発やイベントの実施
施設向けの企業パスポートによる平日の団体誘致(週末は家族や個人)	○	○	小、中学校、高齢者施設などの団体に営業を行い平日の誘致に努める
魅力的なイベントの創出			
7 既存イベントの改善	○	○	既存イベント強化、内容変更等
8 閑散期(冬場や雨の日等)の集客を考慮した年間のイベント計画(イルミネーション等の冬のイベント等)	○	○	閑散期に来園してもらえる年間イベントの計画を行う
記念イベントの実施(令和5年度は開園35周年)	○	○	開園〇〇周年記念イベント等特別感を持たせたイベントを実施する
安全・快適に観覧できる施設の整備			
9 獣舎等の施設の計画的かつ魅力向上に資する老朽化対策	○	○	計画的に老朽化対策とともに魅力向上も併せて実施する。
10 アメニティ施設の整備	○	○	休憩施設やスポットクーラーの整備、園内緑化を行う
雨天時の対策	○	○	室内でお弁当を食べる場所の確保及びそのこととの学校等への情報発信等
トイレの整備・更新		○	入口部の新設、全体的なトイレ配置等の見直しを行う
危険木撤去等の樹木の維持管理(樹木診断含む)	○	○	危険木撤去等来園者の安全対策を行う
11 駐車場の拡張及び区画割の見直し	○		土日等に不足する駐車場の拡張及び区画割の見直しを行う
海外の動物園との連携			
12 海外の動物園からの動物の導入	○	○	動物の交換等により海外の動物園から動物を導入する
検疫施設やバックヤードの整備	○	○	検疫施設の整備やバックヤードの整備を行う
国際種情報システムなどを活用した個体情報の入手	○	○	動物の交換や譲渡等に活用する
13 海外との人的交流や共同事業の推進	○	○	積極的な共同研修や人的交流を行う
連携したイベント等の実施	○	○	海外の動物園と連携したイベント等を実施する
効果的な情報発信			
14 キーパー等の解説等による積極的な情報発信	○	○	キーパーを育成し、積極的な情報発信を実施。
15 SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備	○		Wi-Fiの整備による来園者からの情報発信等。情報発信のための環境整備

【基本方針3】動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現				
動物の生息環境整備				
16	動物の生息環境に合わせた展示施設の整備	○	○	生息環境に近づける展示施設整備等を行う オランウータン舎の整備
学習的・体験的な機能の充実				
17	動物とのふれあいコーナーやこども動物センターの充実	○	○	ふれあえる動物の拡充などの様々な形態の触れ合いを実施。
	学習館等の整備	○	○	博物館・学習館等の整備を行う
	昆虫園等の整備	○	○	昆虫園等の整備を行う
18	バックヤードの見学等を通じた教育活動の展開	○	○	命の教育として飼育環境の見学
	レクチャーシステムの導入	○	○	動物園見学の最初と最後にレクチャーする
19	地理学、分類学、行動学展示を活かした学習環境の整備	○	○	地理学展示等を活かした動物の生息環境の理解促進を進める。
20	学校と動物園の連携強化による教育利用機会の拡大	○	○	バックヤード取材やこどもボランティアガイドの募集を実施。
	子供動物園の運営に携わる職員、ボランティアの育成	○	○	運営が大切であり、携わる職員等の育成を行う
21	キーパーによる動物解説や解説版の設置による学習機能の充実	○	○	キーパーの育成及び解説版の充実を図る
	体験型解説やセルフガイド等の整備	○	○	スタンプラリー・クイズラリー等の充実を図る
	獣医体験	○	○	体験プログラムの開発を行う
	VRやARなどのIT技術の活用	○	○	IT技術の活用
希少種の保存に向けた取り組み				
22	希少動物の飼育と繁殖・保全	○	○	個体数の維持、種の保存に貢献する
23	在来動物の保護及び飼育展示	○	○	日本産、四国産の動物の保護及び飼育展示
	愛媛県のレッドデータブックに載っている動物の保護及び飼育展示	○	○	保護し繁殖施設の整備による種の保存に努める
24	繁殖しやすい環境づくりの推進	○	○	繁殖しやすい施設改修・環境整備 動物病院等を充実させる
視点を考慮した施設の整備				
25	キーパー目線や来園者目線での施設整備の推進	○	○	キーパーや子供目線の施設整備を行う
26	視点(高い視点や動物目線等)を変えた施設整備の推進	○	○	視点を変えた施設整備を行う
【基本方針4】持続可能な動物園の実現				
資本の強化				
27	既存資本の充実・拡充	○	○	積極的にアピールする
28	新たな資本の導入検討	○	○	魅力的なクラウドファンディング等や個別施設のネーミングライツの導入を検討
	民間活力の導入		○	多様な事業者に参加してもらい来園者サービスの向上を図る
持続可能な運営体制の構築				
	職員(キーパー等)の人事交流	○	○	人材育成のため職員の他園等との人事交流を行う
29	組織的・計画的な人材育成の推進	○	○	個人のスキルアップを図るとともに、組織としての実施体制を構築する。
30	ボランティア制度の整備	○	○	ボランティアガイドセンターの設置を検討
	AI導入による効率的な運営やサービスの向上	○		システムの開発や情報の蓄積に努める
飼育動物の安定的な確保				
31	動物管理計画の策定	○		策定を行い計画的な種の保存を行う
32	動物種数維持のための計画的な動物導入等の推進	○	○	他の動物園との協力体制の強化を行う 動物受け入れのための獣舎改修の実施
広報・情報提供の充実				
	コンセプトを設定した取り組みの統一(共通のロゴを使用)	○	○	統一コンセプトのもと事業を実施し訴求効果を高める
33	動物案内ガイドの充実	○	○	案内ガイドの充実に努める
34	WEBやSNS、サイネージ広告を使用した情報発信の強化	○	○	わかりやすいインパクトのある情報発信に努める
	キャラバン隊によるPR活動	○	○	集客施設や集客イベント等においてPR活動を実施する
35	動物とのふれあい体験の実施	○	○	県内各所の小学校等へ外向き動物との触れ合い体験等を実施する
経営改善				
36	経費節減と適切な管理運営	○	○	運営計画の作成及び定期的な見直しにより経費節減等に努める

5. 分野別計画

基本方針別に第3期に実施する事業は次のとおり。

【基本方針1】とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現

○施策1 とべもり+（プラス）各施設と連携・交流の強化

- ・令和3年3月にオープンした、えひめこどもの城ととべ動物園を結ぶジップラインを核とし、隣接する総合運動公園とえひめ森林公園を加えた「とべもり+（プラス）」エリアについて、各施設の特徴を活かし、相乗効果が得られるような連携・交流の取組みを強化する。環境学習、イルミネーション等の共同でのイベントの開催や、それぞれの施設におけるイベントにおいて他の施設も訪れてもらうような仕掛けの検討を行う。

○施策2 県内の観光施設（道後温泉等）や伝統工芸品（砥部焼等）との連携（※追加）

- ・県内有数の観光施設である道後温泉等と連携し、道後温泉エリア等を訪れる人にとべ動物園も立ち寄ってもらえるよう送迎バスの運行等を含めた誘客促進策を検討する。
- ・地元砥部町の伝統工芸品・砥部焼を活用したイベント等の企画・実施による誘客促進に取り組む。

○施策3 とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖

- ・とべ動物園におけるアフリカゾウやホッキョクグマ等の優れた繁殖技術や、県獣であり前身の道後動物園において日本で唯一飼育していたニホンカワウソの飼育展示実績等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖に努めるとともに、ニホンカワウソの生存に係る情報収集に努める。

○施策4 飼育技術の向上や調査研究機能の強化（※追加）

- ・国内外の動物園や大学等と連携強化を図り、研究会への参加及び発表を積極的に行うなどにより、飼育技術の向上や調査研究機能の強化に努める。

【基本方針2】人が集い活力のある動物園の実現

○施策5 海外からの観光客を対象とした取組みの強化

- ・新型コロナの5類移行後、増加傾向にある海外観光客を動物園に呼び込むため、海外に向けた積極的かつ魅力的でわかりやすい情報発信を行うほか、動物園内の多言語表記、日本を感じさせるような体験型イベント等の実施やお土産の開発・販売など受入れ体制の充実を図る。

○施策6 小中高生の来園の増加に向けた取組みの強化

- ・教育の場としての利用促進及び新規顧客の開拓の観点から、団体での来園時に活用できる教材の開発や楽しみながら学習できるイベントの増加などにより、小中高生の入園増加に向けた取組みを強化する。

○施策7 既存イベントの改善

- ・エサやり体験の対象動物の拡大や新たなエサやり方法の検討を行うとともに、プレミアムガイドツアー（TokubeZ00 等）において新たに空き獣舎の見学などの付加価値化に努めるなど、既存イベントのブラッシュアップを行う。

○施策8 閑散期（冬季や雨天・梅雨時等）の集客を考慮した年間のイベント計画

- ・イルミネーション等の冬季のイベント内容の強化や新たにエンターテインメントと学びを両立した企画の立案・実施等、閑散期（冬季や雨天・梅雨時等）に来園してもらうことを考慮しながら年間を通じたイベントを実施する。
- ・イベントの企画に際しては、動物福祉の観点から、動物の生態を十分考慮し、悪影響を与えることがないよう実施する。

○施策9 獣舎等の施設の計画的かつ魅力向上に資する老朽化対策（※拡充）

- ・開園後 35 年以上が経過し、獣舎等の施設の老朽化が大幅に進んでいるため、計画的かつ行動展示や福祉向上等に繋がり、飼育動物の魅力が一層向上するような老朽化対策を実施する。

○施策10 アメニティ施設の整備

- ・記録的な猛暑が恒常化する中、夏季の暑さ対策は、来園者の確保やリピーターを増やすために不可欠な要素であり、園内緑化等日陰で休憩できるスペースの拡充やスポットクーラーの整備、室内展示エリア等を活用したクールスポットの確保などを行う。また、イベントでの利用促進を図るため、ふれあいセンターの改修や各獣舎付近で座ってじっくり観察できる施設やトイレ整備などによって、快適性の向上を図り、来園者の滞在時間の延長にも繋げる。

○施策11 駐車場の拡張整備及び区画割の見直し

- ・土日祝日等に駐車場が不足し、来園者はもとより周辺地域・住民に不便が発生する場合があることから、駐車可能台数の増加に向けて、駐車場の拡張や区画割の見直しなどに引き続き取り組む。

○施策12 海外の動物園からの動物の導入

- ・血統管理等の観点から、海外の動物導入は有効であるため、海外の動物園と連携し、動物の交換等により動物を導入する。

○施策13 海外との人的交流や共同事業の推進（※追加）

- ・海外との積極的な獣医師や飼育員の人的交流や共同事業の推進に取り組み、飼育や繁殖等に関する新たな知見を取り入れ、とべ動物園の評価の向上に繋げる。

○施策 14 キーパーの解説等による積極的な情報発信

- ・とべ動物園の成り立ちや歴史、エピソードなど、動物園の本来の魅力から隠れた魅力について、キーパーが積極的に解説を行うこと等により、来園者に気づきの機会を提供する。

○施策 15 SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備

- ・園内で写真を撮りSNSでアップしてもらうことは、動物園の情報拡散に繋がりを、動物園に行ってみたいと思わせる重要な要素であることから、動物園ならではの写真が撮影できる環境を整備する。
- ・高速通信が可能となる園内のWi-Fi環境の整備・拡充に取り組む。また、大手通信会社と連携し、通信環境の改善にも取り組む。

【基本方針3】動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

○施策 16 動物の生息環境に合わせた展示施設の整備（※拡充）

- ・施設整備を行うに当たっては、生息地の植物等と一体的に整備するなど動物が生息している自然環境を可能な限り再現し、動物本来の生き生きとした行動を引き出すように努める（行動展示の導入拡大）。

第3期では、インドネシアからの導入を目指しているボルネオオランウータンの飼育環境確保のため、新たにオランウータン舎の整備に着手するとともに、整備休止となっている老朽化の著しいサル・ヒヒ舎の施設改修等も含めたモンキータウン全体の整備（生息環境に基づく環境整備）について再検討を行う。

○施策 17 動物とのふれあいコーナーやこども動物センターの充実

- ・動物とふれあうことは情操教育の上でも大切なことであり、また、ふれあいを求めて来園する人も多くいるため、動物とのふれあいコーナーやこども動物センターの充実を図り、バーチャルでは不可能な本物を感じてもらえる体験や癒し（アニマルセラピー等）など様々な形態のふれあいを通じた学習的・体験的な機能を一層充実させる。

○施策 18 バックヤードの見学等を通じた教育活動の展開

- ・「命の大切さ」を学ぶ教育活動の一環として、飼育や動物福祉のためにどのような環境整備に取り組んでいるかをバックヤードの見学等を通じて感じてもらい、命を繋ぐ動物園の役割の理解促進も図る。

○施策 19 地理学、分類学、行動学に基づく展示を活かした学習環境の整備（※追加）

- ・とべ動物園の特徴である地理学、分類学、行動学展示を活かし、類似動物の比較や動物の生態の学習など、書物等では得ることのできない生きた知識を提供できる環境を整備する。また、生息地や種類ごとに分けられている10のストリートゾーンを示すストリートフラッグの更新（多言語化）を図る。

○施策 20 学校と動物園の連携強化による教育利用機会の拡大（※追加）

- ・ 小学校等で、とべ動物園でのバックヤードの取材等を行い動物園の魅力を PR してくれる特派員や案内ガイドを募集するなど学校との連携強化を図り、教育利用の機会の拡大に努める。

○施策 21 キーパーによる動物解説や解説板の設置による学習機能の充実

- ・ キーパーによる積極的な来園者への解説や、動物生態の解説板の増設、飼育動物の成長記録の掲示等により、学習機能の充実を進める。

○施策 22 希少動物の飼育と繁殖・保全

- ・ 現在飼育している個体も含めた希少動物の繁殖に努め、他園との協力も更に強化し、種の保存に努める。
また、希少動物の野生の生息環境を保全のため、意識啓発や募金活動を行うなど、積極的な貢献に努める。

○施策 23 在来動物の保護及び飼育展示

- ・ 日本産、特に四国産の動物の保護及び飼育展示を通じて、身近な郷土の動物に目を向け、その生態等をより多く知ってもらえるよう環境学習を行う。

○施策 24 繁殖しやすい環境づくりの推進（※拡充）

- ・ 研究機関や関係団体等と連携し、繁殖しやすい施設改修・環境整備を行う。また、医療機器や器具、薬品等の購入等、動物病院等を充実させる。

○施策 25 キーパー目線や来園者目線での施設整備の推進

- ・ 働いているキーパーが、必要・面白いと感じる施設や、来園者が見やすく興味を持てる施設の整備を推進に努める。

○施策 26 視点を変えた（高い視点や動物目線等）施設整備の推進

- ・ 動物の様々な生態に気づき、より興味関心を持ってもらうことができるように視点を変えた、新たな視点（より高い視点、動物目線）からの施設整備を推進する。

【基本方針 4】持続可能な動物園の実現

○施策 27 既存資本の充実・拡充

- ・ とべ動物園魅力向上基金の拡充・有効活用、企業版ふるさと納税や動物サポーター制度、各種寄付受付等の活用について、ホームページや園内掲示板により積極的に PRするとともに、より気軽に寄付等が出来る仕掛けを検討する。

○施策 28 新たな資本の導入検討

- ・ 施設整備や動物の導入について、インターネットを活用して個人等から資金を調達する魅力的なクラウドファンディング等の導入を検討する。

○施策 29 組織的・計画的な人材育成の推進

- ・人材育成のため、他機関と連携し、職員の外部研修等への積極的な参加や、計画的な内部研修の実施等により個人のスキルアップを図るとともに、組織として、技術継承や人材育成の充実に向けた体制整備など、計画的・組織的な人材育成を推進する。

○施策 30 ボランティア制度の充実

- ・現在設置しているボランティアガイドセンターを中心に、ボランティアの受入体制やガイド育成研修の充実に努める。

○施策 31 動物管理計画の策定

- ・動物管理計画について、本計画 17 ページのとおり策定し、計画的に種の保存を行う。

○施策 32 動物種数維持のための計画的な動物導入等の推進（※拡充）

- ・動物の寿命を考慮しながら、計画的な動物の購入や他園と連携したブリーディングローンや繁殖を推進する。また、動物導入(購入・ブリーディングローン)に当たっても、動物福祉や長寿命化、繁殖等の観点からも必要な獣舎改修を併せて実施する。

○施策 33 動物案内ガイドの充実

- ・とべ動物園で飼育している動物の魅力を存分に伝えるため、キーパーやボランティア等による案内ガイドの充実に努めるとともに、ホームページやSNSによる動物情報の提供の一層の充実に努める。

○施策 34 WebやSNS、サイネージ広告等を使用した情報発信の強化(※拡充)

- ・WebやSNSなどを使用した情報発信について、情報の拡散を目指し、わかりやすくインパクトのある情報発信に努める。
- ・サイネージ広告などを活用し、効果的なイベント周知を行う。
- ・動物解説板にQRコード等を掲示し、個人のスマートフォンで動物の解説のほか、とべ動物園の個体の特徴も含めた最新の情報が紹介できる機能を検討する。

○施策 35 動物とのふれあい体験の実施

- ・県内各所の小学校等へ出向き、小動物とのスキンシップや解説、学校で飼育している動物の飼い方などの指導を実施する。

○施策 36 経費節減と適切な管理運営

- ・運営計画を作成し、定期的に内容をチェックし見直しを行う。また、適切な入園料設定についても、適宜検討を行う。

6. 動物管理計画

動物管理計画は、動物の保存(展示)・繁殖に向けて動物を選定、分類し、管理していく計画である。本園の動物管理計画は、公益社団法人日本動物園水族館協会 (JAZA)のコレクションプランに基づくとともに、園内の各ストリート(ゾーンニング)の展示コンセプトも踏まえながら、長期的な視点での種の保存への貢献度、教育的・学術的価値、これまでの飼育・繁殖状況、搬出入の見通しといった観点から動物を選定。その意義や必要性、来園者増に繋がる要素を検討し、以下の4つのカテゴリーに分類した。なお、展示する動物種および個体数を適切に管理するためにカテゴリー内の動物種については定期的に見直しを行うこととする。

最優先種(5 種)	展示・教育普及上の意義が高く、保全・繁殖に取り組む必要性があり個体の確保を最も優先する種
・シセンレッサーパンダ ・チンパンジー ・ボルネオオランウータン ・マレーグマ ・マレーバク	  
優先種(11 種)	適切な管理を行い、計画的な繁殖を目指しながら積極的に飼育展示に取り組むべき種
・アフリカゾウ ・コツメカワウソ ・シロオリックス ・スマトラオランウータン ・ビントロング ・マンドリル	・アメリカバク ・シシオザル ・ジャガー ・ヒガシクロサイ ・フタコブラクダ    
維持種(34 種)	それぞれの種の状況に即した管理を行いながら、長期的に飼育展示を維持する種
・アカカンガルー ・アルダブラゾウガメ ・オオサイチョウ ・カピバラ ・クマタカ ・サーバル ・チリーフラミンゴ ・フサオマキザル ・ボウシテナガザル ・マントヒヒ ・ムツオビアルマジロ ・ワオキツネザル	・アジルテナガザル ・アンデスコンドル ・オジロワシ ・カリフォルニアアシカ ・グラントシマウマ ・ダイアナモンキー ・ノマウマ ・ブラッザモンキー ・ホッキョクグマ ・ミナミコアリクイ ・ライオン ・アフリカタテガミヤマアラシ ・エランド ・カバ ・キリン ・コガタフラミンゴ ・ダチョウ ・ピューマ ・フンボルトペンギン ・ボンネットモンキー ・ミミナガヤギ ・ラマ   

検討種(18種)

今後、種点数の維持及び魅力向上を図るために施設改修を含め、新規導入を目指す種

○新たに新規導入を目指す種

- ・アムールトラ ・アムールヒョウ ・アルパカ
- ・オウサマペンギン ・オオアrikui ・ニホンツキノワグマ
- ・ニホンカモシカ ・ハシビロコウ ・フタユビナマケモノ
- ・ブチハイエナ ・ミーアキャット ・ロバ
- ・ユーラシアカワウソ



○現在の飼育種の維持を図るため充実する種

- ・アメリカバク ・コリデール ・サーバル
- ・ピューマ ・ブラッザモンキー



7. ソフト・ハード別施策

①ソフト施策

[イベント]

- ・イルミネーション (施策 1, 8, 15)
- ・季節毎のプレミアムガイドツアー (施策 7, 18, 21, 33)
- ・ふれあいキャラバン (施策 20, 35)
- ・動物のエサやり体験 (施策 7)
- ・写真展 (施策 8)
- ・動物園での砥部焼陶芸体験 (施策 2, 5, 8)

等

[広告宣伝]

- ・PR動画作成 (施策 14, 34)
- ・SNS発信 (施策 14, 15, 34)
- ・サイネージ広告 (施策 34)
- ・インターネット広告 (施策 34)
- ・通信環境整備 (施策 15, 34) 等

② ハード施策

〔施設整備（改修・更新）〕

第1期では、アシカ舎の改修が完成し、アクリル板を使用した展示で水中を泳ぐアシカの姿が見られ、大変好評を得ている。このことから、獣舎の整備は動物園の大きなアピールポイントであり、集客に大きく寄与することが認められた。

第2期では、人気の高いサル・ヒヒ舎の改修を行う予定であったが、事業費高騰の影響により整備を一旦休止することとなった。

一方で、現在インドネシアから雌のオランウータンの導入交渉を進めているところであるが、導入に当たっては、インドネシア政府からも要請があった

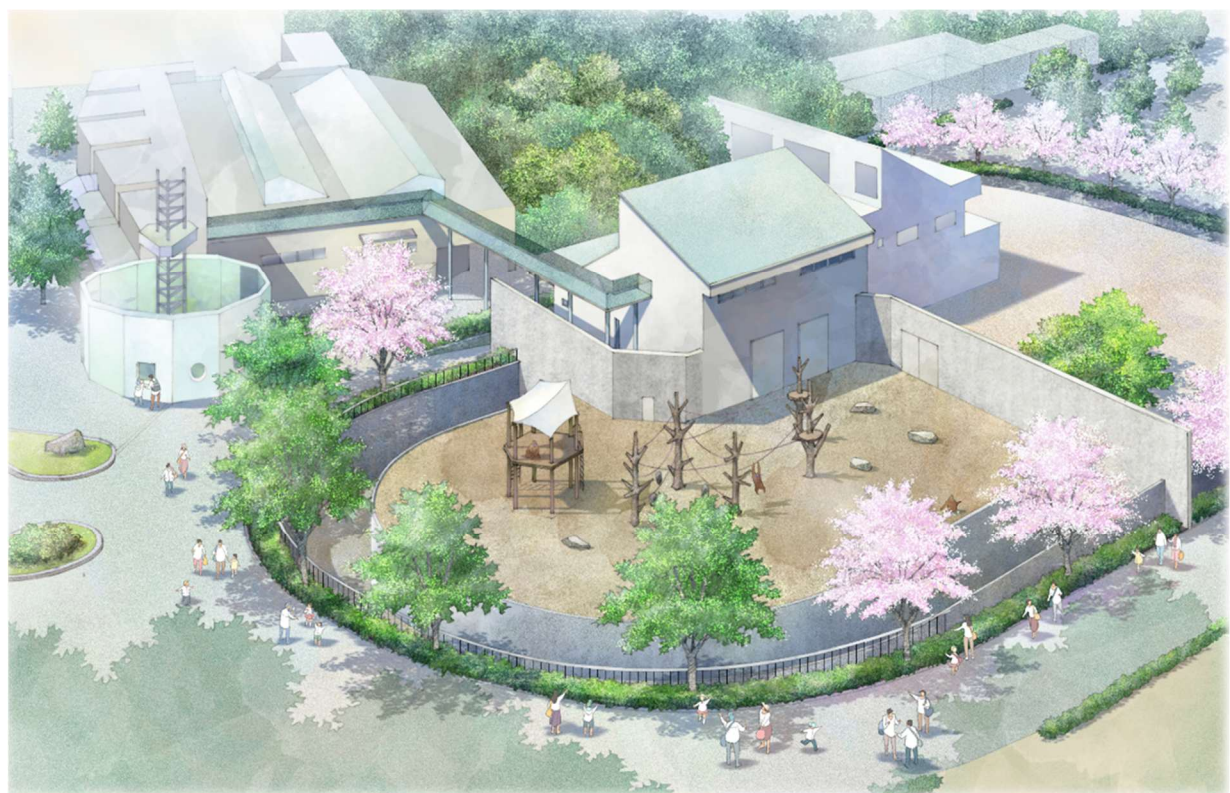
『動物福祉・行動展示』に配慮した類人猿舎の整備』を検討する必要があることから、第3期においては、旧インドゾウ舎を活用したオランウータン舎整備を行うとともに、整備休止となっている老朽化の著しいサル・ヒヒ舎の施設改修等も含めたモンキータウン全体の整備(生息環境に基づく環境整備)について再検討を行う。

(選定施設)

施設名		オランウータン舎	サル・ヒヒ舎	日本(四国)固有種の動物舎	クマ舎	ふれあい施設
整備概要		・空き獣舎となっているインドゾウ舎を活用し、ゆったりとした居住スペースを確保する。 ・インドネシア環境を再現する。 ・現有の網渡り施設も継続して利用できるようバドックから繋ぐ ・オランウータンと近づけるよう室内はガラス展示とする。	・獣舎の高さを高くし、その周辺に観覧用通路と休憩施設を設置する。 ・ガラス張りエリアや飛び地放飼場を設け、サルの自然な動きを間近で観察できる。 ・冬場でも観覧できるよう室内展示・寝室を整備する。 事業休止	(新設) ・ニホンカモシカなど、日本固有種の動物を混合飼育 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元 ・遊歩道を設置し、獣舎内を散策しながら観察できる施設	・檻からガラス展示に変更し、近接して観察できる施設 ・マレーグマ舎は、暖房設備等を整備したり、土のグラウンドや樹木を整備したりする等飼育環境を改善	(新設) ・ポニー等の乗馬ができる屋外施設を整備 ・天候に左右されず、小動物とふれあえる屋内施設を整備 ・モルモットの成長過程を展示 ・カフェや休憩所の整備
報告書	レクリエーション					○
	教育	○	○	○	○	○
	繁殖	○		○	○	
	調査研究	○	○	○	○	
	動物福祉	○	○	○	○	○
	老朽化	○	○		○	
行動計画	ニュース化	○	○	○	○	○
	対象 若者	○	○			○
	外国人			○		○
近隣における新規性		○	○	○		
人気(アンケート)			○			
整備の優先度		◎	○	○	△	△
備考		インドネシアから、メスのオランウータン導入を目指しており、今後繁殖も期待できる。	事業費高騰により、事業休止		・マレーグマはBLにより搬入した若い個体が繁殖適齢期。	整備先としている遊具跡地は、各獣舎改修時の仮獣舎スペースとして使用予定

オランウータン舎改修		(施策 12, 16, 25, 26)
概要	・インドネシアからのメスのオランウータンの導入・繁殖を見据え、獣舎を整備する。 ・空き獣舎となっているインドゾウ舎を活用し、ゆったりとした飼育・子育てスペースを確保し、生き生きとした動きを引き出す。 ・インドネシアを意識した獣舎整備を行うとともに、屋外パドックにおいては借景を意識する。	
整備方針	○既存施設の有効活用 現有施設を有効活用するため、既存類人猿舎とインドゾウ舎をブリッジ等でつなぎ、費用節減を図る。 ○展示の工夫 オランウータンは樹上で生活する動物であることから、インドネシアの生育環境を意識して整備を行う。またオランウータンに近づけるように、一部をガラス展示とする。 ○飼育環境の改善 広い飼育スペースによって、生き生きとした動きを引き出す。その結果として繁殖の期待が高まる。	

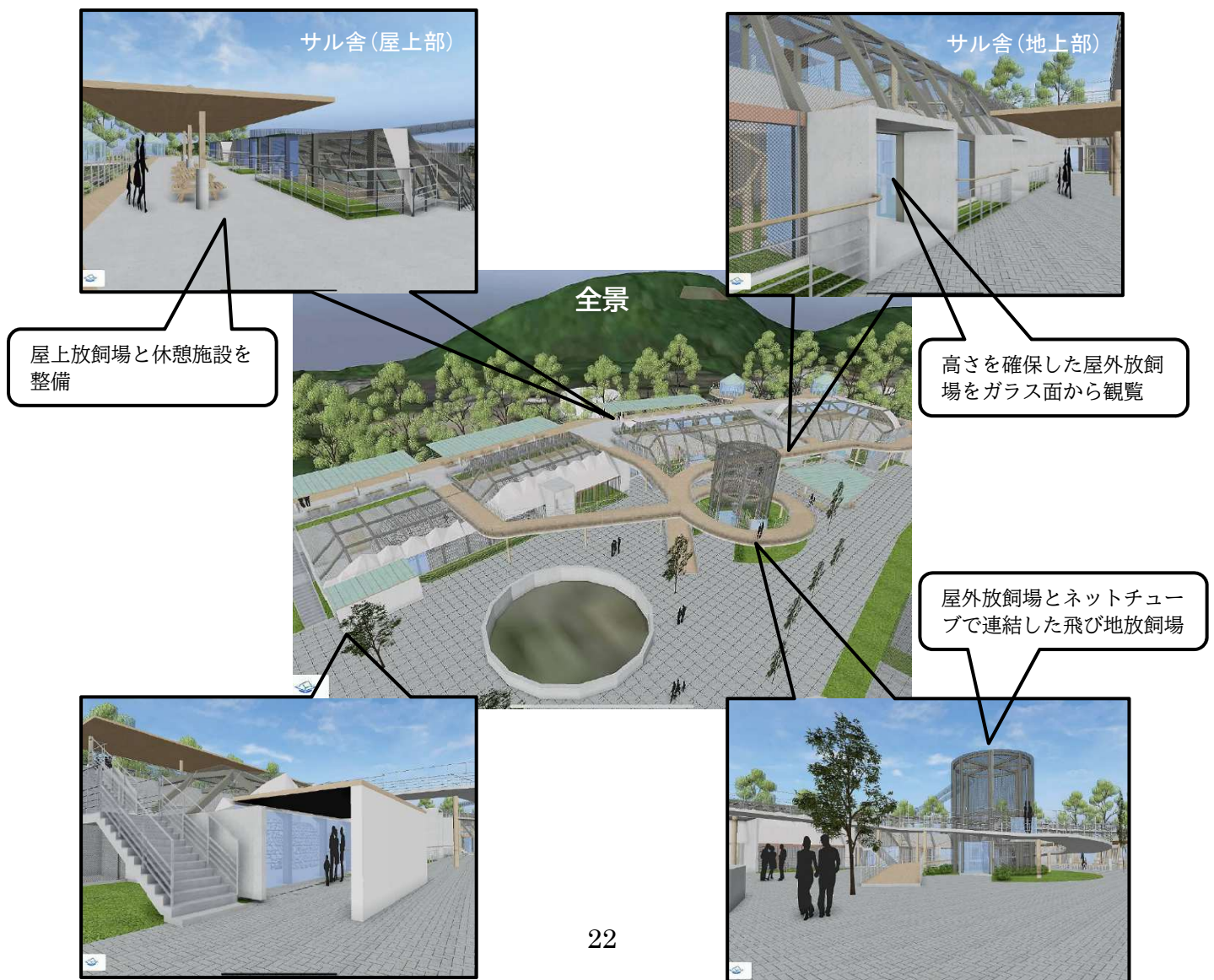
イメージ図（構想）



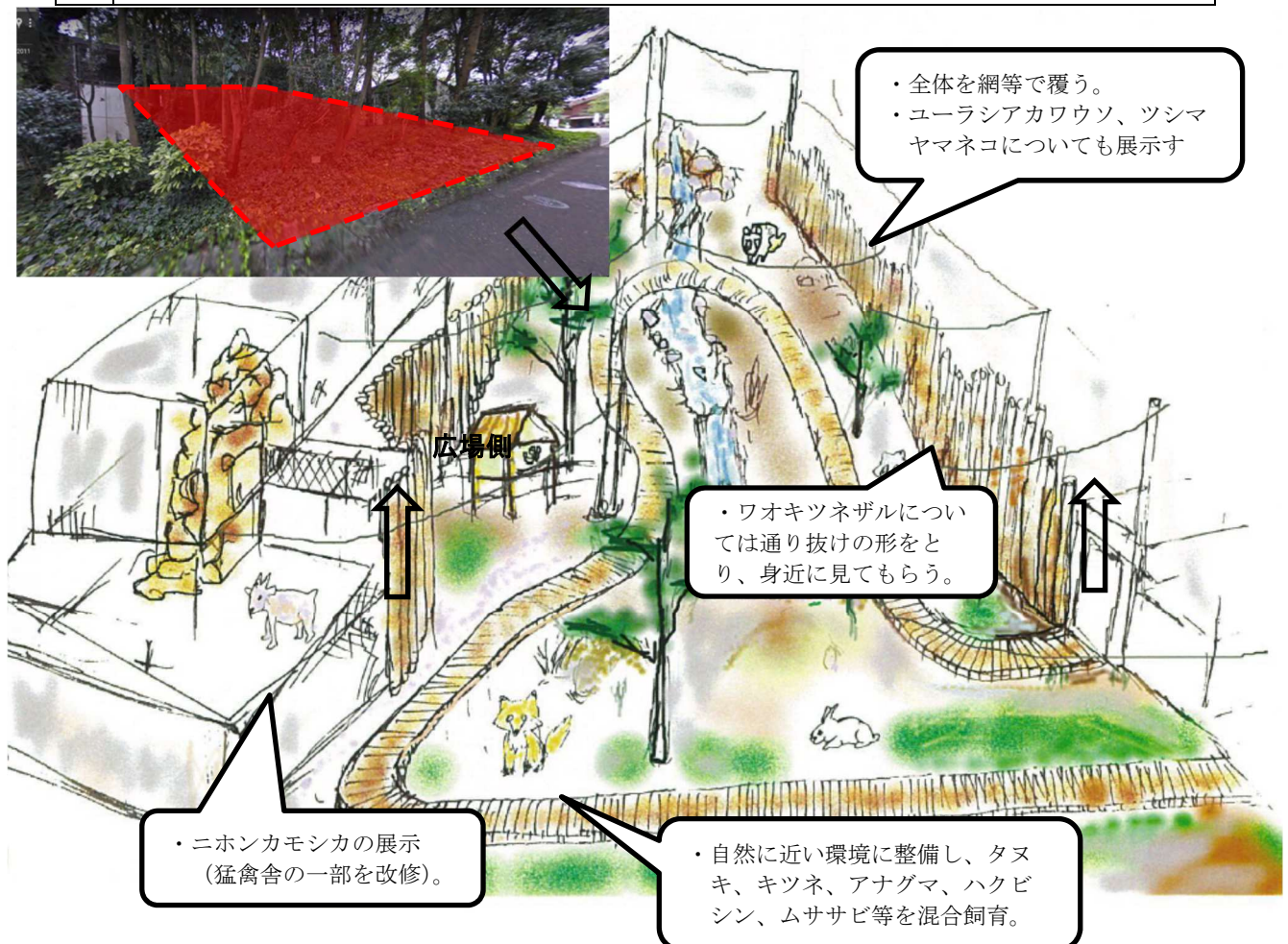
※今後の検討により整備内容は変更の可能性有

サル・ヒヒ舎改修 (施策 9, 16, 25, 26)	
概要	・サル・ヒヒは種類が多く、来園者アンケートによると人気のある動物の一つであり、従来の比較展示に対応した高さの低い檻による長屋構造を解消して開放的な獣舎にすることにより、生き生きとした動きを引き出し、人気エリアの更なる魅力向上を図る。 ・獣舎の高さを高くし、その周辺に観覧用通路と休憩施設を設置する。 ・ガラス張りエリアや飛び地放飼場を設け、サルの自然な動きを間近で観察できる。 ・冬場でも観覧できるよう室内展示・寝室を整備する。
整備方針	○展示の工夫 展示室の空間を広く取り、回遊性を持たせた観覧通路を配置し、見る人が散策、探検できる楽しみのある施設とする。また、飛び地放飼場を設け、サルが頭上を移動する姿など様々な角度から観覧できるようにする。また、屋上にはゆっくり見て回れるよう休憩スペースを設け、観覧者を滞留させる。 ○飼育環境の改善 種を絞ることで飼育スペースを確保し過密状態を解消し、また、より生息域に近い環境を再現し、生き生きとした動きを引き出す。その結果として繁殖の期待が高まる。

イメージ図（構想）



日本（四国）固有種の動物舎（仮）新設	（施策 16, 23, 25）
概要	・ニホンカモシカ等の日本（四国）固有種の動物について保護し展示する施設を整備する。（地域の動物は地域で守る） ・知っているようで知らない、地元の動物の生態にあらためて目を向けてもらい来園者の気づきを促し、愛着を持ってもらう。 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元した中で、固有種の動物を混合飼育する。 ・遊歩道を整備し、通り抜けできるようにする。
整備方針	○全国的に人気の施設 柵なしで動物を間近に観察できる施設は全国的に人気で、動物が暮らしている世界に足を踏み入れたかのような感覚になり、動物とのふれあいに近い体験ができる。『生きているミュージアム ニフレル』（大阪府）では、柵がなく、小動物が自由に動き回る施設が人気。 ○フォトジェニックな施設 間近に動物の写真が撮れたり、動物と一緒に写真が撮れたりするとともに、SNS等による拡散も期待できる。 ○環境教育に資する施設 里山の環境を復元し、そこに生息している固有種の動物を混合飼育することにより、身近な動物への興味を促すとともに、人間と動物の関係性、環境の変化による動物生態への影響、開発と保全のバランス等について考えさせることができる。



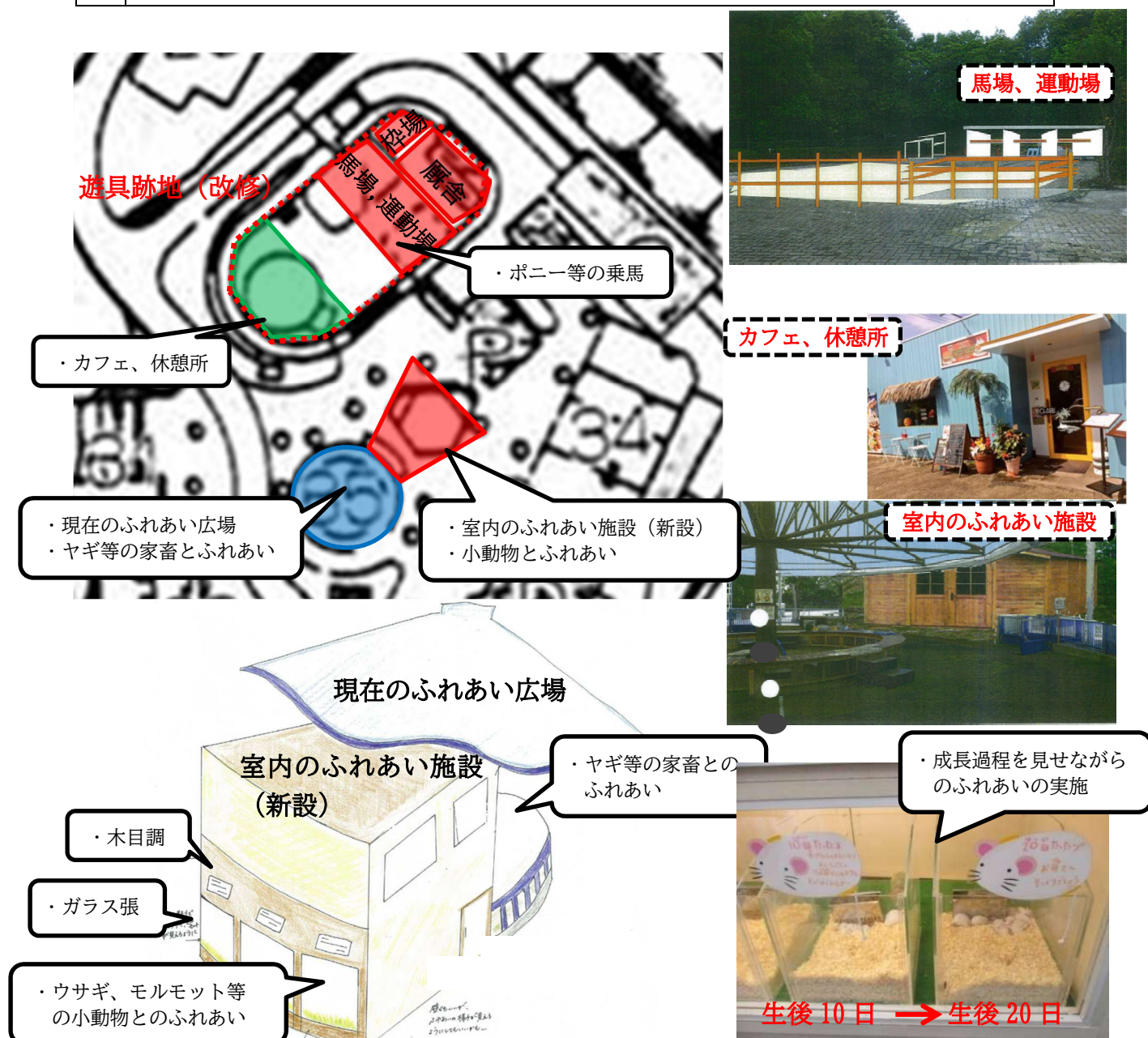
クマ舎改修	(施策 9, 16, 25, 26)
概要	・ ホッキョクグマのピースの外、マレーグマなどの生き生きとした姿を見せることにより、ベアストリートのエリアとしてイメージアップを図り、ピースの人気を更に高める。 ・ 来園者等からの要望が強い、現在の檻による長屋構造をガラス展示に変更する。人止め柵がなくなり、獣舎を拡張できる。 ・ マレーグマは、ブリーディングローンにより搬入した若い個体が繁殖適齢期を迎えており、繁殖を図るためには施設の改修が必要。
整備方針	○展示の工夫 現在の狭い檻が並ぶ長屋構造をガラス展示に変えることにより、近接して観察することができるとともに、ガラス越しに手を合せたり、視線を合わせたりすることもでき、また、ツーショット写真を撮ることもできる。 ○繁殖の期待 マレーグマについて暖房設備を整えたり、土のグランドや樹木を整備したりする等、飼育環境を改善させ、より生息域に近い環境を再現することにより、繁殖の期待が高まる。



〔イメージ〕



ふれあい施設拡充	(施策 10, 16, 17)
概要	・動物とふれあうことが大切であり、また、ふれあいを求めて来園する人もいるため、ふれあい機能の拡充を図る。 ・天候によりふれあいを中止することがないように、来園者のニーズに応えられるよう室内のふれあい施設を整備する。
整備方針	○動物や来園者に優しいふれあい 動物福祉の観点（動物の低温及び高温ストレスを避ける）及び来園者の満足度向上のため、室内でもふれあいが行える施設の整備を行う。これにより、天候に左右されない、安全で確実な動物とのふれあいを行うことができる。また、ふれあい施設及び園内各所に日陰で休憩できるスペースの整備や暑さ対策設備等の導入を図る。 ○ふれあい機能の拡充 室内では小動物と、現在のふれあい広場ではヤギ等の家畜とふれあいを行い、遊具跡地においてはポニーの乗馬ができるようにする。 ○教育的な視点を踏まえたふれあい 小動物については、モルモットの成長の過程を見せながらのふれあい等、教育的な視点も取り入れたふれあいとする。



[施設整備（部分改修）]

老朽化対策と併せ、魅力向上に資する部分改修を実施。

獣舎名	ストリート名	改修内容	魅力向上効果	改修予定年次
クロクモザル舎	モンキータウン	金網交換 シュート新設	テナガザルを当獣舎に移動し、行動展示、クロクモザルとの比較展示が可能となる。	令和7年度
ツルクジャク舎	ウォーターストリート	（鳥インフルエンザ用）ネット設置	鳥インフルエンザ対策により、通年展示が可能となる。	令和7年度
カメ舎	スネークハウス	ガラス改修 ジオラマ展示	生息地と同じような行動が観察可能となる。	令和7年度
アカカワイノシシ舎	アフリカストリート	ガラス展示追加	ガラス展示により、近くで生態観察可能となる。	令和8年度
ジャガー舎	アメリカストリート	プール改修 （設計含む）	全国の動物園でも珍しいネコ科動物の水中展示が可能となる。	令和8年度 令和9年度
インコケージ	アメリカストリート	（鳥インフルエンザ用）ネット設置	鳥インフルエンザ対策により、通年展示が可能となる。	令和9年度

[施設整備（動物導入用）]

新たな動物導入のため、必要な獣舎改修については、動物管理計画を踏まえ実施する。

獣舎名	ストリート名	導入動物	改修内容	改修予定年次
ペンギン舎	ウォーターストリート	オウサマペンギン	室内展示場 エアコン設置、ガラス交換	令和7年度 令和8年度
ラマ舎	アメリカストリート	アルパカ	エアコン設置、鉄柵改修	令和7年度
シカ舎	アジアストリート	ニホンカモシカ	フェンス嵩上げ	令和7年度
アカカワイノシシ舎	アフリカストリート	ブチハイエナ	シュート扉等改修	令和8年度
ヒョウ舎	アフリカストリート	アムールヒョウ	エアコン設置	令和8年度
トラ舎	ゾウストリート	アムールトラ	ネット改修（設計含む）	令和8年度 令和9年度

[観覧環境整備]

◎園内の多言語表記	(施策 5, 21)
◎ストリートゾーン表示の更新	(施策 5, 19)
◎解説板の増設	(施策 5, 21)
◎飼育動物の成長振り返り掲示板の設置	(施策 5, 14, 21) 等
◎ふれあいセンターの改修	(施策 10)
◎休憩施設整備	(施策 10)
◎スポットクーラーの設置	(施策 10)
◎園内の緑化	(施策 10)
◎水遊び場	(施策 10)
◎駐車場の拡張	(施策 11)
◎インスタポイント	(施策 15)

[その他]

◎動物の導入	(施策 3, 12, 13, 22, 28, 31, 32)
◎医療器具の購入	(施策 24)
◎新たな資本の導入検討	(施策 27, 28)
◎適切な管理運営（運営計画の定期的な見直し）	(施策 36)
◎人材育成（外部・内部研修）	(施策 4, 13, 29)
◎ボランティア制度の充実	(施策 30)
◎県内観光地との連携	(施策 2)
◎他の動物園との連携	(施策 4)
◎学校との連携	(施策 20)
◎学習用教材の充実	(施策 6) 等

行動計画(第3期)施設整備(改修・更新)位置図



8. 年次計画

年次計画

() 書きは施策番号

	令和7年度												令和8年度												令和9年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体	成熟期(高い「とべ動物園ブランドロイヤリティ」の獲得)																																			
	魅力的なイベントや情報発信によるニュース化 魅力的な施設改修によるニュース化																																			
ソフト事業	ふれあいキャラバン(②⑤) プレミアムガイドツアー(⑦⑧⑨⑩) 砥部焼陶芸体験(⑤⑧)、写真展(⑧)																																			
	エサやり体験(⑦)												年間を通した魅力的なイベントの継続実施(⑦⑧)																							
	イルミネーション(①⑧⑮)																																			
	PR動画作成(⑭⑳)																																			
	インターネット広告(㉔)、SNS発信(⑭⑮㉔)												WebやSNSを活用した情報発信(⑭⑮㉔)																							
	サインージ広告(㉔)																																			
ハード事業													(設計・工事)																							
													オランウータン舎改修(⑫⑬⑭⑮)																							
													老朽化対策、魅力向上部分改修、動物導入用改修(⑨⑬⑮⑯㉔)																							
	園内の多言語表記・案内板の整備(⑤⑨)、飼育動物振り返り掲示板の設置(⑤⑭⑨)																																			
	休憩施設整備、スポットクーラーの設置、園内の緑化(⑩)																																			
	獣舎のライトアップ(⑧⑮)												水遊び場(⑩)												インスタポイント(⑮)											
動物導入等													動物の導入(③⑫⑬⑭⑮㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)																							
													医療器具の購入(㉔)																							
その他													新たな資本の導入(㉗㉘)																							
													人材育成(④⑬㉙)																							
													ボランティア制度の充実(㉚)																							
													適切な管理運営(㉛)																							
													県内観光地との連携(②) 他の動物園との連携(④)学校との連携(㉜)																							
													学習用教材の充実(⑥)																							